

環境省 環境報告ガイドライン(2018年度版)による項目

記載ページ		記載ページ		記載ページ	
第1章 環境報告の基礎情報		7. 長期ビジョン		2. 水資源	
1. 環境報告の基本的要件		(1) 長期ビジョン		(1) 水資源投入量	
(1) 報告対象組織・対象期間	表紙の裏	(2) 長期ビジョンの設定期間	1~9-56	(2) 水資源投入量の原単位	57-59
(2) 基準・ガイドライン等	64	(3) その期間を選択した理由		(3) 排水量	
(3) 環境報告の全体像	表紙の裏	8. 戦略		(4) 事業所やサプライチェーンが水ストレスの高い地域に存在する場合は、その水ストレスの状況	
2. 主な実績評価指標の推移		(1) 持続可能な社会の実現に向けた事業者の事業戦略		3. 生物多様性	
(1) 主な実績評価指標の推移	54~59	1~9-56		(1) 事業活動が生物多様性に及ぼす影響	
第2章 環境報告の記載事項		9. 重要な環境課題の特定方法		(2) 事業活動が生物多様性に依存する状況と程度	
1. 経営管理者のコミットメント		(1) 事業者が重要な環境課題を特定した際の手順	14~15	(3) 生物多様性の保全に資する事業活動	26~29 48
(1) 重要な環境課題への対応に関する経営責任者のコミットメント	1~7-16	(2) 特定した重要な環境課題のリスト	17	(4) 外部ステークホルダーと協働の状況	
2. ガバナンス		(3) 特定した環境課題を重要であると判断した理由		4. 資源循環	
(1) 事業者のガバナンス体制		(4) 重要な環境課題のパウンドリー		(1) 資源投入量(再生不能・再生可能)	
(2) 重要な環境課題の管理責任者	14~16	10. 事業者の重要な環境課題		(2) 循環利用材の量	54~59
(3) 重要な環境課題の管理における取締役会及び経営業務執行組織の役割		(1) 取組方針・行動計画	16	(3) 循環利用率(=循環利用材の量/資源投入量)	
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況		(2) 実績評価指標による取組目標と取組実績	17-56	(4) 廃棄物等の総排出量・最終処分量	
(1) ステークホルダーへの対応方針	8~11 34~37 42~53	(3) 実績評価指標の算定方法・集計範囲		5. 化学物質	
(2) 実施したステークホルダーエンゲージメントの概要		(4) リスク・機会による財務的影響が大きい場合は、それらの影響額と算定方法		(1) 化学物質の貯蔵量・排出量・移動量・取扱量(使用量)	58~59
4. リスクマネジメント		(5) 報告事項に独立した第三者による保証が付与されている場合は、その保証報告書		6. 汚染予防	
(1) リスクの特定、評価及び対応方法	14~15 44	参考資料		(1) 法令順守の状況	54~59
(2) 上記の方法の全社的なリスクマネジメントにおける位置づけ		(1) 温室効果ガス排出(スコープ1, スコープ2, スコープ3排出量)	54~56 59	(2) 待機汚染規制項目の排出濃度、大気汚染物質排出量	58~59
5. ビジネスモデル		(2) 温室効果ガス排出原単位		(3) 排水規制項目の排出濃度、水質汚濁負荷量	
(1) 事業者のビジネスモデル	1~7-12~13	(3) エネルギー使用量の内訳及び総エネルギー使用量		(4) 土壌汚染の状況	
6. バリューチェーンマネジメント		(4) 総エネルギー使用量に占める再生可能エネルギーの使用量の割合			
(1) バリューチェーンの概要					
(2) グリーン調達の方針、目標・実績	57				
(3) 環境配慮製品・サービスの状況					

表紙作品の公募について

東海国立大学機構環境報告書は、本機構の環境に関する幅広い取組を本機構の構成員はもちろん、中高生など若い世代や近隣地域にお住まいの方など多くの方に知っていただくことを目的として作成しています。このたび東海国立大学機構として初めて岐阜大学、名古屋大学の学生および教職員に表紙作品の公募を行い、多数の素晴らしい作品の応募が寄せられました。この取組により多くの方々はこの表紙を見て本報告書を読んでいただくことで、東海国立大学機構の教育や研究などを通じたさまざまな環境活動に興味を持っていただく機会となれば幸いです。今回ご応募いただいた皆様と、公募の周知にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。



大賞



表紙掲載

東海国立大学機構
経営企画部経営企画課
わかばら しずえ
若原 静映 さん

岐阜大学と名古屋大学のキャンパス、全体の色調、文字(Tokai, Gifu, Nagoya)は、東海国立大学機構として岐阜大学・名古屋大学が連携して進めていくことを、岐阜・愛知県をかたちどったペン先と地球を模した空、ルリビタキ、クローバー、文字から伸びる飾り線は、東海国立大学機構の環境に関する取組が、安心で平和な世界が未来に続いていくことを表現しました。

優秀賞



裏表紙掲載

名古屋大学 環境安全衛生管理室 ^{とみた けんご} 富田 賢吾 さん

「東海から未来へ」
東海国立大学機構長、名古屋大学総長、岐阜大学学長が手を取りあい、地球の環境を考え、未来へ進んでいくイメージをイラストにしてみました。



名古屋大学 工学部マテリアル工学科4年 ^{うえの ゆうき} 上野 友綺 さん

人々が環境とともに安心できる未来を歩んでほしいという想いを込めてこのイラストを作成いたしました。こちらを向いて待っている精霊(自然環境のイメージ)が私たちの目を惹きつけて、ともに明るい森の先(未来)へ進んでいくという作品です。また、若い学生にとっても親しみやすいデザインかと思われます。